

健康情報センター機能の強化

～保健所情報ルームからネットワークづくりの拠点へ～

北多摩北部保健医療圏 多摩小平保健所・多摩東村山保健所

実施年度 開始 平成 15 年度、 終了 平成 15 年度

背景

平成 13 年 1 月、多摩小平保健所に情報ルームを設置し、保健所が持つ情報の発信、関係機関のパンフレットの配布、関係者向けの衛生教育用ビデオの貸出しなどを行ってきた。しかし、現状では 情報の加工・更新が不十分、コンセプトが不明確、情報の分類が十分されていない、等課題があった。また、保健所の再編に向け、圏域としての情報発信機能を強化するための下地づくりが必要であった。そこで、保健所情報ルームの再構築を中心に保健所の健康情報センター機能の強化を図る取組を行うこととした。

目標

保健所情報ルームの再構築を中心に、保健所の健康情報センター機能の充実、強化を図る。

事業内容

- 1 平成 14 年度
情報ルームの再構築 PT を 11 月に設置し、施設見学等を行い、保健所情報ルームの改善について検討した。また、椅子や掲示板等物品（不用品）の譲渡を受けた。
- 2 平成 15 年度
 - (1) 多摩小平保健所情報ルームのリニューアル
 - ア クイズの木と 8 つのコーナーを設置(最新情報コーナー、保健所コーナー、関係者向けコーナー、感染症コーナー、パンフレットコーナー、ビデオ視聴コーナー、測定コーナー、情報統計コーナー)
 - イ 保健所情報ルーム紹介リーフレットの作成・配布
関係者(市、医療機関、学校等)及び住民に配布し、校外学習等衛生教育等での活用を促進
 - ウ 情報ルームリニューアル記念講演会の開催
・参加者： 110 人
・テーマ及び講師「子どもたちに命の大切さを伝えるために」
日本助産師会理事・川島助産院 川島広江氏
「この冬のインフルエンザ・SARS 対策を考える」
国立感染症研究所感染症情報センター 主任研究官 砂川富正氏
 - (2) ホームページの充実
トップページの変更と、掲載内容を再構築することにより、より分かりやすい情報の発信をめざすため、現在リニューアル作業中。また、職員の技術向上を図るため、ホームページ作成講習会を開催した。
 - (3) 情報戦略会議の活性化
既存会議である情報戦略会議を活性化するため、2 保健所の職員で構成するとともに、部会を設置し、情報ルームやホームページのリニューアルの検討等を行い、保健所の情報機能の充実強化を図った。

評価

- 1 以前の情報ルームは人の出入りがほとんどなかったが、リニューアル後は保健所利用後に立ち寄り方や見学に来る方で活気が始まった。測定、最新情報、感染症コーナーが人気である。
- 2 保健所情報ルームを各コーナーで分類したため、目的別情報の収集や最新情報の入手が容易となった。
- 3 情報ルームは、様々な企画により発展させることができる。例えば、ルームの充実週間の設定、ボランティアの導入、関係者向けコーナーに市、健康づくり施設など保健福祉教育関係者の情報の掲示を強化するなど、関係者の拠点としての役割を充実する必要がある。
- 4 既存会議を活用することにより、職員の発想を基にした情報機能強化が図られた。

問い合わせ先

多摩小平保健所 企画調整課 企画調整係
電 話 0424-50-3111
ファクシミリ 0424-50-3261
E-Mail s0000351@section.metro.tokyo.jp

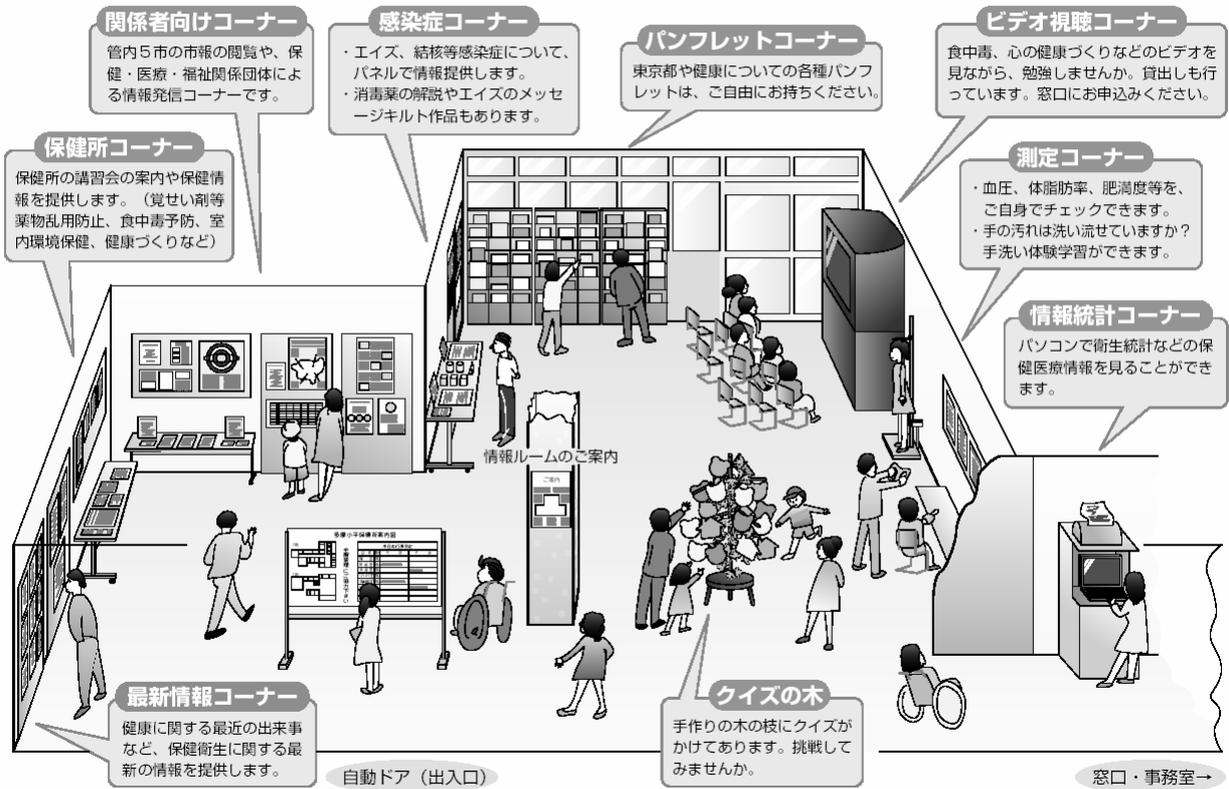
リニューアル前



- ◇ 情報ルームの入口付近にボードやパンフレット棚が配置され、入りにくいレイアウトである。
- ◇ 情報の分類、案内がされていない。
- ◇ 広いスペースは確保されているが、殺風景の感じがある。

保健所情報ルームの紹介リーフレット

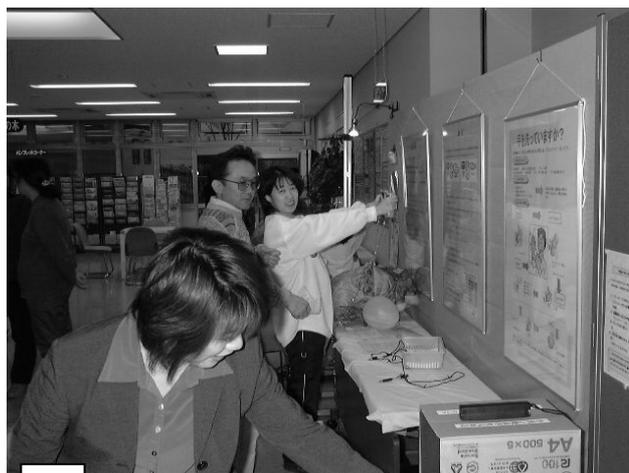
保健所情報ルーム案内図



リニューアル後



1



2



3

写真1 保健所情報ルーム全体

クイズの木と8つのコーナーを設置。

写真2 測定コーナーで体脂肪率測定中

人気第1位?のコーナーで男性も身長、体重、血圧、体脂肪を計測する姿を見かけます。測定用紙を使った人は、1カ月で51人。人気を二分する、最新情報コーナーでは、冊子が8日間で80冊利用された。

写真3 測定コーナーの小学生

総合学習で保健所に来た小学生。「本当に汚れが落ちているかな?」と興味深く、手洗い体験学習中。

写真4 クイズの木

材料費は1万3千円程度です。職員のアイデアと所内物品の有効活用により、小学生にも楽しく学習できるものになりました。

写真5 感染症コーナー

防護服に触っている人を多く見かけます。



4



5

高齢者施設における結核管理推進事業	
北多摩北部保健医療圏	
実施年度	開始 平成 15年度、 終了(予定)平成 16年度
背景	<p>圏域には高齢者施設が多く、保健所には施設からの結核発生届や結核疑い段階での相談が多数寄せられている。</p> <p>平成14年度に、多摩小平保健所と多摩東村山保健所は、課題別地域保健医療推進プラン「結核患者の療養支援の充実」に取り組み、高齢者施設における結核管理体制の実態調査の実施、施設職員と協働して結核対策マニュアルの作成を行った。</p> <p>各高齢者施設がこの結核対応マニュアルを参考に、施設独自のマニュアルを作成し、結核管理の充実を図るための支援の継続と本事業の評価をする必要がある。</p>
目標	<p>平成14年度に作成したマニュアルの普及と高齢者施設職員への啓発を目的とする。具体的には、次の事項を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者施設職員の結核に対する危機管理意識を高める。 2 結核管理マニュアルを作成する高齢者施設を増やす。 3 結核管理等について、保健所への相談、支援要請を行う高齢者施設を増やす。
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 結核対応マニュアル研修会の開催 圏域内の50施設を対象として研修会を開催し、25施設(5割)が参加した。参加者にマニュアルを配布し、各施設が施設独自のマニュアルづくりの必要性を理解することを目標とし、結核の基礎知識、結核発生時の基本的な対応方法を講義するとともに、マニュアルの特徴や具体的な内容を紹介した。 2 結核対応マニュアル研修会未参加施設へのアプローチ 研修会に参加しなかった特別養護老人ホーム6施設には直接訪問し、施設管理者と健康管理責任者にマニュアルの説明を行い、フォロー研修への参加を促した。 3 フォロー研修の開催 上記1の研修会に参加しなかった施設に対してマニュアルの周知を図ること、及び参加した施設に対し引き続き具体的な作成方法や活用方法を習得することを目的に実施した。その際、マニュアル作成に先駆的に取り組んでいる施設の協力を得て、マニュアルの必要性を呼びかけ、具体的な患者発生の事例(シミュレーション)を基に、情報の収集内容や連絡方法など具体的な対応方法をグループで検討し、理解を深めた。
評価	<p>1年目の成果として、対象とした50施設に配布が完了した。そのうち、37か所は、研修参加や直接説明により配布できた。研修参加時や個別訪問時に活用方法の説明をして配布をすることができた。</p> <p>日常の結核発生届けや疑い段階での相談場面で、配布したマニュアルを用いながら対応することがみられ、地域に普及している手ごたえが感じられる。また、施設からの相談の寄せ方も落ち着きを増している傾向にあり、話の内容が通じやすく、理解を得やすい印象がある。実際の効果については、平成16年度(継続)の取組の中で明らかにしていく予定。</p>
問い合わせ先	多摩小平保健所 保健対策課 感染症対策係 電話 0424-50-3111

取り組み内容等

1 結核対応マニュアル研修会の開催

(1) 内容

テーマ：「施設で役立つ結核対応マニュアル
～ 高齢者入所施設における結核発生予防と発生時の対応～」

内容及び講師：病気の理解 … 保健所医師
結核発生に伴う基本的な流れ … 保健所保健師
マニュアルの内容説明 … 保健所保健師

実施回数：同じ内容で、会場を変えて2回開催

< 講義内容の一例 >

圏域5市の結核の発生状況

	平成14年	平成13年	平成12年
多摩小平保健所	84人	72人	74人
小平、西東京市			
多摩東村山保健所	103人	85人	120人
東村山、清瀬、東久留米市			
合計	187人	157人	194人

- 5市の結核罹患率は、多摩地域の平均を超えて高い
- 特に多摩東村山保健所の管内で高い

2003.0623 結核マニュアル説明会

飛沫核(空気)感染とは？

- 咳やくしゃみと一緒に結核菌が飛び散り、これを吸い込んだ人が感染を受ける。
患者さんの食器などからは感染しません！
- しぶきが乾燥しても、菌(飛沫核)は空气中を漂い、空気の流れに乗って数メートル離れた人に感染させてしまいます。

水分が乾燥しても、空气中に広がる！

2003.0623 結核マニュアル説明会

施設内感染対策委員会のメンバーや連絡担当者、相談窓口、緊急連絡体制を記入

保健所	課	TEL
連絡担当者	①	②
施設内感染対策委員会	委員連絡先	緊急連絡先
	利用者・家族からの相談窓口担当者	

緊急時の連絡体制

※休日の連絡体制も確認しておきましょう

結核の診断

1 どの医療機関で診断されましたか？
医療機関で結核の診断を受けた時は、どのような検査で結核と判じよう。その情報は、後で今後の対応を保健所と協議するとき

検査内容を再度確認します

2 どのような検査で診断されましたか？

胸部レントゲン検査	菌検査
<input type="checkbox"/> 陰影有 <input type="checkbox"/> 陰影有 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 培養検査 <input type="checkbox"/> 胃液検査 <input type="checkbox"/> その他

その他の検査→
 塗抹検査 G()号 又は(-+・++・2+・3+)
 遺伝子検査 (PCR・MTD)→ (-+・+)

3 診断した医師はどのように判断しましたか？

結核と診断	結核と診断
<input type="checkbox"/> 結核専門病棟での入院治療が必要 <input type="checkbox"/> 入院して詳しい検査も行う <input type="checkbox"/> 検査結果が出るまで施設で待機	<input type="checkbox"/> 結核 <input type="checkbox"/> 結核

発生届けはどここの保健所へ？

4 診断した医師は、保健所(患者さんの住所)したか？

届出した	届出していない	わからない

保健所

(2) 参加状況

ア) 日程別

第1回	平成15年6月23日	17か所	22名
第2回	平成15年7月23日	16か所	19名
合計		33か所 (66%)	41名

イ) 市別参加状況

	参加数	対象数
小平市	1	8
西東京市	7	11
東村山市	10	16
清瀬市	4	11
東久留米市	3	4

ウ) 施設種類別参加状況

	参加数	対象数	割合
特別養護老人ホーム	15	28	53%
養護老人ホーム	2	3	66%
経費老人ホームA型	2	4	50%
介護老人保健施設	6	10	60%
有料老人ホーム	0	4	0%
ケアハウス	0	1	0%

(3) アンケート結果

回収数	39名	看護職	29
		介護職	4
		事務職	2
		医師	2
		施設管理者	1
		その他	1 (相談員)

1 病気についての理解について

	大変理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	まったく理解できなかった
病気の経過	20 (51%)	18 (46%)	1 (3%)	0
感染の仕組み	20 (51%)	18 (46%)	1 (3%)	0
二次感染の予防方法	17 (44%)	21 (54%)	1 (3%)	0

“大変理解できた”と“だいたい理解できた”を合わせて9割以上が理解できたと回答した。

2 予防対策を含めた基本的な対応方法の理解について

	大変理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	まったく理解できなかった
患者発生後の対応	17 (44%)	19 (49%)	1 (3%)	0
保健所との協議のタイミング	17 (44%)	20 (51%)	1 (3%)	0
接触者検診のタイミングと方法	14 (36%)	23 (59%)	1 (3%)	0
予防対策について	13 (33%)	24 (62%)	1 (3%)	0

“大変理解できた”と“だいたい理解できた”を合わせて9割以上が理解できたと回答した。

3 「対応マニュアル」の理解や今後の作成、活用の可能性について

マニュアルの必要性を	強く感じた	少し感じた	あまり感じない	まったく感じない
	36 (92%)	1 (3%)	0	0
マニュアルの作成方法を	良く理解できた	まあ理解できた	あまりできない	まったくできない
	18 (46%)	20 (51%)	0	0
作成できそうですか	すぐに出来そう	何とかできそう	ほとんど出来そうにない	まったく出来そうにない
	3 (8%)	33 (85%)	1 (3%)	0

ほぼ全員がマニュアルの必要性を感じている。

今回の目標としたマニュアルの作成方法の理解や今後作成できそうかどうかは、いずれもほぼ全員理解が高く、作成できそうと回答した。

2 フォロー研修の開催

(1) 内容

テーマ：「自分の施設の結核対応マニュアルづくり」

内容及び講師：マニュアルの内容説明...保健所保健師
 施設での取り組み...東京都東村山ナーシングホーム職員
 事例を用いてグループワーク ...保健所保健師

事例検討の内容

Aさんは一年前に特別養護老人ホームに入所した88歳の女性
 11月に入りAさんの食欲不振が目立つようになった。
 37.2の微熱があり、嘱託医が診察、風邪かもしれないと
 経過観察となる。
 10日後状態変わらず、協力病院を受診。血液監査、レント
 ゲン検査の結果「肺炎」と診断され入院する。
 1か月後、協力病院から施設に連絡が入る。
 「Aさんの入院時の痰から結核菌が検出されました。」
 この連絡を受け、どのように対応しますか。

3グループに別れ、上記事例と元に、マニュアルを活用しながら対応策を出し合う
 グループワークを行った。

(2) 参加状況

12施設 15名

ただし、6,7月研修に既参加施設。新規の参加は得られなかった。

(3) アンケート結果

回収数	10名	看護職	7
		介護職	0
		事務職	2
		医師	
		施設管理者	1

マニュアルの必要性を	強く感じた 7 (70%)	少し感じた 1 (10%)	あまり感じない 0	まったく感じない 0
マニュアルの作成ポイント を	良く理解できた 4 (40%)	まあ理解できた 5 (50%)	あまりできない 0	まったくできない 0
作成できそうですか	すぐに出来そう 3 (30%)	何とかできそう 6 (60%)	ほとんど出来そうにな い 0	まったく出来そうにな い 0
活用できそうですか	すぐに出来そう 4 (40%)	何とかできそう 6 (60%)	ほとんど出来そうにな い 0	まったく出来そうにな い 0

「マニュアルの必要性」「作成できそうですか」の問はいずれも無回答であったところのうち、
 2施設は、既に施設マニュアル作成済みの施設であった。

3 その他：フォロー研修参加の出欠確認の際行ったアンケート

回収数 14施 / 50施設

- (1) 1結核対応マニュアル研修会不参加は4施設で、業務の都合上、日程時間が合わないが理由であった。
- (2) マニュアルづくりの必要性は、5施設が施設内でマニュアルの必要性は確認していた。
- (3) マニュアルづくりの「予定なし」2、「検討中」5、「作成中」1、「作成済み」2、であった。